

# 小児血液腫瘍患者における末梢挿入型中心静脈カテーテル（PICC）と留置型中心静脈カテーテル（CVC）の留置可能期間に関する後方視的検討

## 研究情報

### 【研究の意義、目的】

小児の血液疾患または腫瘍疾患の患者さんでは長期間にわたる化学療法、病状把握のための1週間に複数回の頻回採血、経口摂取ができなくなったときに行う中心静脈栄養（点滴からの栄養）のため、中心静脈カテーテルの留置は治療管理上必須です。中心静脈カテーテルは手や足から確保する通常の末梢点滴と異なり、カテーテルの長さが長く、心臓付近の大きな血管の近くにその先端を留置することで上記の需要を可能にします。中心静脈カテーテルは、頸部の血管からカテーテルを心臓付近まで進めて、反対側は皮下トンネルを通して胸部などの皮膚から外に出す埋め込み型の中心静脈カテーテル（CVC）か、腕の血管からカテーテルを心臓付近まで進める末梢挿入型中心静脈カテーテル（PICC）を使用します。カテーテルを血管内に長期留置に際しては、カテーテル関連感染症やカテーテルの閉塞、破損、予期せぬ抜去などのトラブルのために計画外での抜去のリスクが伴います。PICCはCVCと比較して挿入する処置における合併症が少なく安全で有用であると言われてはいますが、いずれのカテーテルが留置継続可能期間が長く有用であるかの報告は限定的です。本研究では、当科の入院患者においてPICCとCVCが安全に留置できる期間を後方視的に比較して、両カテーテルの安全性及び有用性を検討することを目的としています。これによって、患者さんによってどちらのカテーテルが安全で有効かを明確にでき、患者さんへのカテーテル感染症のリスクを減らし挿入や抜去などの処置を減らせる可能性があります。

### 【研究の方法】

本研究では、2011年1月1日～2016年12月31日の期間に当科に入院した患者さんの中でPICCまたはCVCを留置した患者さんを対象として、カテーテルの挿入日、抜去日、カテーテルに関連した感染症や閉塞などのイベントの有無を、患者さんの年齢、性別、疾患などの臨床情報と共にカルテから抽出して、連結可能匿名化した上で解析を行います。

### 【研究機関名】

名古屋大学大学院医学系研究科小児科学

### 【診療情報のご提供について】

本研究では患者さんの個人情報を取り除いた上で、診療情報を診療録（カルテ）から

収集します。そのため、2011年1月1日～2016年12月31日の期間に当科に入院したことのある患者さんは本研究に診療情報を提供して頂く可能性がありますが、皆様はこの情報提供を拒否する権利を有します。上記に該当する方で、本研究への情報提供を希望されない方は、説明担当者までご連絡下さい。一方で、本研究の解析結果が何らかの形で公開された後で情報提供拒否の意向が確認された場合、その意向に完全に沿うことが困難になることもありますのでご理解下さい。

**【保有する個人情報に関して】**

皆様の情報を分析する際には、氏名・住所・生年月日などの個人情報を取り除き代わりに新しく符号をつけ、誰のものか分からないようにした上で（連結可能匿名化）厳重に保管します。

**【問い合わせ・苦情の受付先】**

○問い合わせ先

説明担当者氏名：名古屋大学医学部附属病院小児科 成田 敦

（電話 052-744-2294、ファックス 052-744-2309）

○苦情の受付先

名古屋大学医学部経営企画課 臨床審査公正係：(052-744-2479)